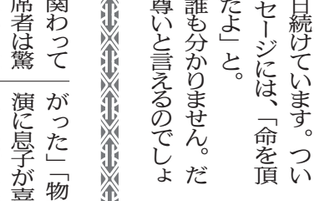

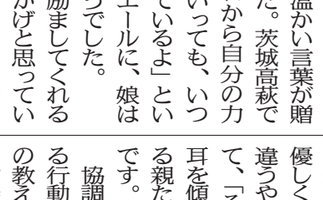

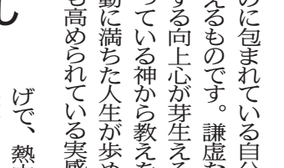

# 友輪

発行所　横浜市南区宮元町４丁目82番地　郵便番号232-8515
大山祇命神示教会神総本部
編集部
電話　045・731・5373
©大山祇命神示教会　2018

時代の姿が大きく変わろうとする今（今日）
信者は家族で「教え」を学び
「真理」に生きる家庭をつくる心（努力）が必要
――「教え」に生きて
人（人間）は運命に重なる「人生」を歩んでゆける――
「生きがい」を手にし
喜び多い人生を歩む　人（人間）の心（姿）が　ここにある

# 運命に重なる人生に
# 奉仕の心が得徳（えとく）へと

人は、誰かの役に立ち、生きがいを覚えます。自分自身の存在が生きてこそ、悔いのない人生となるのです。それには、奉仕の心で生きることが欠かせません。そこに、与えられた良さが光り、毎日が明るく、夢のあるものとなります。周りに良い影響を及ぼして、仕合せの輪も大きく広がります。それが得徳のかなう人生です。

## 教えに生きて　周りに影響を

支え合いの社会において、人はさまざまな影響を与え合うものです。そのときに、自身の生き方が周りに良い影響を及ぼすものであれば、どれほど徳積みになるか知れません。多くの人から愛され、受け入れられ、慕われるような人物になることです。そこに、得徳がかないます。

それには、神の教えを学び、真理を支えに生きることです。社会にあふれている知識、情報ではなく、神から学んだ生きる知恵を身に付けるところに、生き方が高まります。見逃してはならない内面にも目が向いて、物事の感じ方、捉え方、考え方、まさに生き方が光ります。

希望の光（みち）が通る人生とするためには、教えに生きる努力を積み重ねていくことです。神も、このようにお教えくださっています。

神示
「悔いなき人生」手にするために
人（人間）は奉仕に「生きる」心が必要
なれど
「真理」がつかめぬために
人（人々）との出会いが生かせず
「道」欠き　悩む
皆（信者）に問う
「希望の光（みち）」が通る
心（人生）の姿を意識していようか
「教え」を学び
「人生」に生かす努力が大切
「運命」の力を頼る心が
持てていようか
互助する心は大切なれど
「運命」の力を
世（社会）に奉仕する心（信念）が
「人生」を守る
「導神」「心導」
共に心は得徳（えとく）につながる
なぜ　神は　使者を通し
社会に「真理」を教えるのか
分かるかや
人（人間）がいかに努力し
過去（歴史）に学び　分析を重ねても
先（将来）は見えない
一人として同じ運命はない
時代の姿（運命）も同じ
人類は　「教え」を学び
「真理」に悟りを得ることで
歴史　経験を生かせる
知識を「真理」で見詰め直すほど
あるべき世界の姿が見えてくる
品性　人徳は
「真理」に裏打ちされて
「人生」を守る知恵となる

人生を悔いのないものとするには、奉仕に生きる心が必要と、神はお教えくださいました。悔いのない人生とは、神から与えられた運命、世に役立つ力を引き出し、生かしきることです。

ところが、真理を知らず、道を欠いては悩むのが、現実です。さまざまな知識に振り回され、的確に判断する基準の持てない人が多いのです。

## 光（みち）が通る心が　運命を生かす

そのような社会だからこそ、教えを学び、真理に生きることを意識しなくてはなりません。希望の光（みち）が通る心を意識するのです。光（みち）を通すためには、道を守ることです。

神の教えは、真理であり、この世の仕組み、その中でどう生きれば仕合せになれるのかを示す教えです。教えを学んだなら、毎日の生活に生かす努力が不可欠です。

そして、運命を頼る心を持つのです。人の運命ではなく、自分自身の運命です。一人一人が持つ神から与えられた良さを生かせば、社会に貢献でき、自らも満足し、生きがいが味わえます。

そのように、各自の力を大いに役立たせていこう、人の役に立とうという信念が、得徳となって人生を大きく守ります。教えに生きる努力を重ねて、奉仕の心を忘れないことです。

## 品性　人徳が　人生を守って

神が真理を表されるのは、生ある誰にも悔いのない人生を歩んでほしいからです。持って生まれた運命を生かして、生きがいある毎日を送ってほしいのです。

供丸斎先生の時代は、神示教会の基礎をつくる時代でした。ですから、まずは神の実在を示すことが主流であったともいえます。供丸姫先生の時代は、希望の光（みち）を開き、真実の光（みち）を確立する時代でした。そこに、救いにつながる真理が次々と示されました。そして、救いの道が完成し、神魂の時代は、「道を守れば光（みち）が通る」と言われ、教えに生きて、希望の光（みち）、真実の光（みち）を歩みきることができます。ですから、教え、真理に生きられるように努力するのです。

神から生を受けた人間として、道理にかなう生き方をするのは、当然のことです。その真理に気付けないから、知識を絶対と思って依存し、また過去から学ぼうとするのです。それでは救いの道を見いだせません。人間がいかに努力し、過去に学び、分析を重ねても、将来を見通すことはできません。人に人を救う力はないのです。

一人として同じ運命はありません。時代の運命も同様です。それなら、変化する時代の中で有益な存在になることです。必ず役立つものがあるのだから、自信を持って奉仕の心で生きるのです。

人生を悔いのないものとするために、与えられた良さを生かして、奉仕の心で人のために生きることです。それが得徳となります。品性、人徳を高め、社会に貢献できる自分を磨いていきましょう。品性、人徳は、人生を守る知恵となると、神も言い切られています。

学んで祈願、そして得徳のかなう人に

# 心　魂の救いを実現
# 確実な開運への道を

**福寿の集い**

八月五日、神総本部と偉光会館（ひかりのやかた）を結んで、福寿の集いが行われました。明魂（みょうこん）登録をした人を対象に、毎年一回、神のお力で運命実体を清め、開運へと近づけていくのが、この福寿の集いです。

誰もが迎える人生の終日。そこに不安を覚えるのも人の常です。そのような人間を救うために、供丸姫先生は全人生を懸けて、希望の光（みち）から真実の光へと、魂の救いまでが実現する確実な救いの道を開いてくださいました。

神がつくられた神示教会の救世環境には、全国各地に納骨堂である御魂（みたま）安置所（あんちじょ）が整備されています。今の人生を終えた後も、神魂の絶大なご守護の中、魂の安泰を得て、次の人生につながる時を待つことがかないます。

直使が開いてくださった救いの道に沿い、人生を神魂に預けて生きることを誓うのが、明魂登録です。そして、年追うごとに人生を高めていけるように、確実な開運を求めて毎年開催しているのが、福寿の集いです。

福寿とは、幸福と寿命です。神が意図される幸福とは、悔いのない人生を歩み、開運をかなえること。寿命は、単に長寿でなく、命が尽きるまで心身ともに健康であることです。

真の健康とは、健康な生き方です。周りを批判したり、否定したりするのではなく、人、物に感謝し、調和して生きることです。全人生を神魂に委ねてこそ、そのような生き方ができます。

形の救いより、心の安定、心の安心感、そして悔いのない人生、魂の救いを求め続けて、真実の光（みち）が実現します。福寿の集いに寄せて、神はこのように表されました。

神示
人生は　神の手の中
人それぞれに　寿命を手にして
開運求めて歩むもの
皆（信者）も同じ
なれど　世の人（人々）と
大きく違うものがある
気付いていようか
「教え」を学び
「人生の真理」を知って
今（有限人生）を歩む皆（信者）は
必ず「開運」がかなう
一日一日の命を大切に
「人生」を奉仕にささげ
社会を「正道」へと
導くために
心（救世心）を遣う
「集い」の今（今日）
心も新たに　「開運人生」を願い
奉仕心（ほうしごころ）に生きる誠を
神（神魂）に誓う
「思い」を神は受け止め
皆（信者）の心（人生）を　悔いなきもの（時代）へと
導き　守る

人生は有限です。しかし、心の道は無限です。その無限の道を次々と引き上げていくためには、与えられた今の人生を正しく生きることです。教えを学び、的確な判断力を身に付けて、道を欠かない生活をするのです。そして、多くの人の役に立つように、奉仕の心で生きることです。神示教会の信者が求めるまことの救いは、とても深いものなのです。

# 教えを人生の支えに
# 心を救ってこそ福祉

**供の会**

神示教会では、体の不自由さはあっても、神の教えを心の支えに、神魂と共に力強く生き抜いていくための供の会を月々開催しています。加えて八月二十五日には、教主正使者供丸光先生が出場され、神示を基にご指導くださいました。

教えを学び、心の軸に据えることは、運命に重なって生きる上で、誰にも必要なことです。一人一人が社会に役立つ存在であり、真理に沿って生きるところに、障害にも負けず、生きがいのある人生が歩めます。

現代は、あふれる情報に振り回され、不便、不満などと感じる原因を他者に求める傾向があります。しかし、教えに生きれば、さまざまな支えに感謝して、心の豊かな生き方ができるでしょう。

今求められるのは、心の豊かな生き方です。明るく、楽しく人生を生き抜けるように、心を救うところに、福祉のあるべき姿があります。神も、このようにお教えくださっています。

神示
――「教え」を学び
心（人生）の支えに据える
努力を重ねる――
「真理」に生きる人（人々）が増えるほど
運命が重なり　補い合って
社会は回ってゆく
社会の姿（真実）を
「真理」で見詰めて「生きる」
信者を目指せよ
神見るに
皆（信者）は「教え」に生きる
「心（信念）」が弱い
不便なこと　不満なこと
生活に起きる
不安なことの対応を
家族や社会に求める思いが強い
運命が導く「人生」を
神に願い求めて
よって「教え」に生きる
心（信念）を強く持つ
「教え」が信者の心に
「運命」を頼って「生きる」
心（信念）を芽吹かせる
今（今日）　社会は
「心豊かな人（人間）」の誕生を
求めている
運命に重なる人生を歩む人（人々）は皆
心明るく
「夢」を持って生きられる
「教え」を人生の支えに生きる
皆（信者）の姿に
社会は福祉のあるべき姿を
正しく理解できるのである

# 協調する世界の実現
# 真理に生きて貢献を

**ロサンゼルス信者勉強会**

八月十一日、アメリカロサンゼルスで供丸光先生による勉強会が行われました。通信授業の整備により、世界のどこに住んでいても、教えを学ぶ環境は整っています。しかし、実際に神示を受けられる供丸光先生から直接学べるのは、格別なもの。当日は、全米各地からロサンゼルスに信者が集いました。

世界には、さまざまな文化、文明があります。それが時代の変化とともに、発展してきた事実があります。しかし、そこには人間の限界も見えてきます。人間が生み出した宗教も、科学も、真の救いを実現するには至っていないのが現実です。動きの激しい世界の中で、真理、道理に沿ってこそ、物事の解決の糸口が見えてきます。主義、主張を戦わすより、互いの力を重ねて協力し、譲り合って協調する大切さに、多くの人が気付いていくことでしょう。

神も、このようにご指導くださっています。

神示
人間は　時代の力（運命）に導かれて
有限の時（時代）を生きている
時代の力が
地域の環境を変化させる
その中で
文化　文明　宗教　科学が
自然と育ち　発展してきた
世の姿（真実）が悟れる人（人々）は
人間の存在　非力（ひりき）が見える
ゆえに　万物に関わりを深め
感謝の思いを抱（いだ）いて
奉仕心（ほうしごころ）を身に付けてゆく
真実「真理」に生きる人（人間）の心（姿）が
ここにある
世界は「真理」を
時代の変化　自然の猛威を通して
気付き　悟りを深める
思想は
「真理」に悟りを深める人々が
誕生するほど
会話を通し　調和し
まとまりを見せてゆく
一国一城の　主義　主張は
唯物思想が生み出した幻想
時代の流れの中で
「真理」を軸に　世界の姿は
協力　協調してゆく
信者は　「真理」に生きて
「運命」が導く「人生」を歩み
真実「幸福の姿」を求め
「悟り」を深めてゆくもの（存在）

自らが見える世界は狭くても、人類が生きる世界は広いものです。その世界にある万物が、神がこの世に生み出された、互いに支え合う必要なものです。何一つ不要なものはありません。

物の価値を重んじる唯物思想に偏った主義、主張から、精神世界に目を向けて、協調、調和に努める時代へと、変わりつつある現代です。その中で、世界は変化を繰り返しながら、安定に向けて進んでいます。

教えを知った信者であれば、今の世界の動向を知り、自分に与えられた運命、良さを生かして、広く社会に貢献できる存在を目指しましょう。そこに悔いのない人生が実現し、真実の幸福が手に入ります。教えから悟りを深めていくことこそ、大切なのです。

# 多くの出会いを深め
# 実体を補い　子育て

家庭のありようが多様化し、人間関係も複雑になっている現代。父、母がいて、子供がいるという基本的な構成ではない家庭も多々あります。

その中で子供を育てていくには、少なからず不安もあるでしょう。そのときに、必要なものをどう補い、子供の心を育んでいくか、そこをつかむことが大切です。

どのような環境に生まれようと、この世に生を受けた一人一人は、社会に役立つ運命を与えられています。ですから、奉仕心を身に付け、実体に流されることなく、多くの出会いを生かし、深めて、良さを発揮できるように心掛けることです。

大事なのは、孤独の殻にこもることなく、積極的に人と接点を持つことです。神も、このようにご指導くださいました。

神示
――人（人間）は皆　神の手の中
「運命」を与えられて
誕生している――
親と子は
その家（や）の「心の道」に
「実体」を受け継いで
運命（寿命）の中で生きている
その一人一人の「人生」に合わせて
神は命（運命）を宿すのである
人生の真実を知って
信者は皆
「教え」を心（人生）の支えに
生きるべし
「教え」が信者の心（人生）を
孤独から救い
多くの人（人々）との出会いを深めて
楽しい「人生」を歩み抜ける
一人親として「人生」を歩む今
なすべきことは
奉仕心（ほうしごころ）を身に付け
一人一人　一つ一つの出会いを
生かす心（努力）を欠かぬこと
自然と出会いは広がり　深まり
日々（ひび）の生活（人生）に潤いが戻る
「出会い」が生きるほど
人生は生きがいにあふれ
楽しく映る

# 神所の誕生を目指し
# 家族で教えを生かす

**旭川信者勉強会**

今、北海道で待たれているのが、旭川偉光会館（ひかりのやかた）の誕生。現在、建設工事が進み、平成三十一年春開所予定の大分偉光会館に続き、旭川偉光会館の開所を目指しています。

冬期には工事が止まる環境から、開所はまだ再来年。そのような中で、八月十九日、供丸光先生は旭川まで出向かれて、勉強会を行ってくださいました。北海道第二の神所完成まで目指すべき課題を、神はこのようにお示しくださいました。

神示
「希望の光（みち）」が通る心の姿を教えん
有限人生を
悔いなきもの（時代）にするために
人（人間）は運命が導く人生を
歩むことが必要
「教え」を学び
「人生」の軸に据えるなら
人（人間）は皆
運命に重なる人生が歩める
「道」を守りて
「光（みち）」が通るのである
運命実体が重ならず
ぶつかり合うことが多い今（今日）
「教え」を学ばず
日々（にちにち）歩む人（人々）は
実体を下げ
悩み　迷い　苦しみを
深めている
政治　経済　教育　医療が
社会を守り
発展させているのではない
いつの世にも　人生を楽しむ人（人々）と
苦しみ　迷う人（人々）とが混在している
なぜか
この世の仕組み
真実の姿を知ってごらん
この世は　神の手の中
運命実体が互いに重なり
補い合って回るが真実の姿
なれど　「真理」を欠き
知識　努力を頼って
生きるがために
真理なき世の中にいて
人々は「夢」欠き
希望が見えないでいる
神が使者を通し
世（社会）に示す「教え」を
家族で学び
家庭に生かしてごらん
「光（みち）」が通り　運命が導く人生を
歩んでゆける
ここに
「開運」かなう人生の姿がある

誰もが仕合せになれる運命を持っていながら、人生を楽しめる人と、苦しみ、迷う人とが混在するのが、世の中です。だからこそ、信者は神から教えを学び、この世の仕組みの中で真理に沿って生きるのです。

特に大切なのは、家族そろって教えを学び、家庭の中で生かしていくことです。開運するには、どうしても和のある家庭が不可欠だからです。

# 感謝の心を報恩へ

## 自分の生き方を高めて

月々の学びが実りある一年に

大自然の中で大きなものに包まれている自分を意識したとき、人は生かされている感慨を覚えるものです。謙虚な気持ちになり、限りある命を大切に生きようとする向上心が芽生えるかもしれません。一人一人に命を授けてくださっている神から教えを学び、祈願とともに生活していれば、感謝や感動に満ちた人生が歩めます。神魂への感謝が深まるほど、心も、人生も高められている実感が味わえるでしょう。

### 今年の成長の証し

神の教えを学び、祈願で生活に生かす努力を重ねる中で、より良い人生を目指す生き方が定着していきます。

「昨年より大きく成長できた心を『御礼御祈願書』で届けたい」と願う三十代の男性です。仕事に追われて慌ただしい日々の疲れは、休日に偉光会館で学んで祈願し、体も、心も、頭もリフレッシュ。人の言葉や環境に流されやすかった心が、今では「教えに生きれば後悔はない」と言い切れるほど、安定感が増しています。

一年一年心が成長していけるのは、日頃の学びの成果といえるでしょう。

神の教えから気付いたことを実践している六十代の女性です。介護を要する実家の母親の元へ毎日通えるのは、何も言わずに出してくれる夫の理解があればこそ。「あなたのおかげで…」「いつもありがとう」と、思いを伝えるように心掛けています。すると、夫からも「お母さんの具合はどう」「自分の体は大丈夫か」と気遣いが返ってきて、夫婦の絆が深まっています。

「今年は猛暑続きで、生きていることが奇跡です」と語るのは、一人暮らしの九十代の女性です。日頃から近所付き合いが多く、地域の催しにも参加する行動派です。「神魂のご守護のおかげで、熱中症にもならず、元気な姿を報告できます」と、感謝いっぱいに語っています。

### 今を生きる感動を

初めてデイサービスに通うこととなった八十歳の男性です。長年教員をしてきて、人の世話になることに抵抗がありました。その時、背中を押してくれたのが、「おじいちゃんのような博学者がいたら、きっとみんなも喜ぶだろうね」という孫のひと言でした。通い始めて一カ月たった今では、周りから「先生、先生」と呼ばれて、すっかり人気者になっています。

「人の役に立ちたい」と思える心には、若さを保つ秘訣があるようです。

五十九歳の女性。夫は昨年の秋に肺炎で倒れ、現在は人工呼吸器での生活を余儀なくされています。自分が口から食べられない体でありながら、テレビで見た健康に良い食品を家族に勧める夫。現実を冷静に受け止めている姿は、大きなご守護そのもの。強く優しい生きざまが、看護師たちのうわさになるほどでした。仕事帰りに、病室で交わす筆談は毎日続けています。つい先日の夫のメッセージには、「命を頂いたこと、感謝だよ」と。

あすのことは誰も分かりません。だからこそ、今が尊いと言えるのでしょう。日々の感動を多くの人と分かち合える宝の時間、それが人生です。

### 思いを受け継いで

光友会生の女性は、「若い頃から教会の係で頑張ってきた」と自慢する父親が嫌いでした。しかし、毎月の光友会で神示を深く学ぶようになり、父親への感謝に心が変わりました。帝王切開で生まれた時、祈願し続けてくれた両親の愛によって、今の自分があります。「何事も感謝を忘れるから、心に不平や不満が生まれる」という教えをいつも心に留めて、これからは恩に報いる人生を歩むことを誓っています。

人生で大切なものが見えた人は、心を高める努力を惜しまないものです。

老衰で九十五歳の人生を閉じた女性の玉納奉寿がありました。心から神を信じて、家族をはじめ、多くの人に愛をかけてきた人生でした。儀式の中では、「おばあちゃんの自慢の孫になる」孫やひ孫たちの誓いの後に、長女は家族を神につないでくれた母親への感謝の言葉を。長女の夫は、「今の家族の固い絆が、母親からの遺産です」と、胸を張って参列者に語りました。

信者ではない親戚から、「深く理解できる内容だった」「お葬式の概念がひっくり返った。一度教会へも行ってみたい」などの反響が。玉納奉寿に関わった職員は、故人が一番願っていたものが家族に受け継がれている姿に、深い感動を覚えました。

さまざまな経験を重ねて、人の心は成長します。神魂のご守護の中で、教えに生きる一年一年の確かな歩みに、悔いのない人生が得られるのです。

# 各界の専門家が登場

## 文化講座で有意義に

### 多種多様のテーマ

各界で活躍する講師が出演する文化講座。豊富な専門知識を基に社会に貢献する方たちの話は、興味津々の内容です。

「健康番組とは違った深い話が聞けてうれしい」「建築士の話は、住まいのことを考える機会になった」「介護に必要な愛の心が分かった」食、医療、育児など、バラエティに富んだ内容に期待が膨らみます。

### 興味深い話に感動

思わず引き込まれる充実の時

管理栄養士の菅原美和さんは、「脂肪や糖も大切な栄養素」と語りました。「体に良い物も取り過ぎは逆効果」など、実例を交えた話は分かりやすく、出席した人たちが熱心に耳を傾けたひときでした。「食事は腹八分目に。何事も適量、ほどほどが肝心」との言葉に、それぞれが深くうなずいていました。

湊雅行氏は、音響のエンジニアとして活躍している方です。映画やドラマの音楽が作られる流れを語り、人々の興味を引きました。予想以上に多くのスタッフが関わっていると知り、出席者は驚きの表情に。お互いの意見がぶつかり合う中でも人との和を意識し、仲間と心を一つに、良いものを作り上げようとする湊氏の姿勢が感動を呼びました。

視野が広がったり、日常生活を見直すきっかけになったり、それぞれが講演を楽しんでいます。

### 誰でも気軽に参加

文化講座は毎月二回開催。一年で二十四人もの講師の話を楽しめます。神総本部、偉光会館周辺の町内会にも案内し、興味を持った誰もが気軽に参加できるのも魅力の一つです。

中には、介護の話を聞こうと、初めて家族で教会を訪れたという人もいます。また、「フォトグラファーの話を聞いて、写真が趣味の妹と盛り上がった」「物理学者の講演に息子が喜んで参加した」などの声も。「夫と子育ての話を…」「料理好きな友人を誘って…」と、各人が身近な人と一緒に足を運んでいます。

今後も興味深いテーマがめじろ押しです。気軽に話を聞く中で、物の見方を深める良い機会となることでしょう。

# 家族の愛に見守られ

## 人生の出発　神宝祭

世の中では成人年齢が見直されていますが、神は一人一人の良さが芽吹く十五歳を成人とお教えくださいます。その節目に行う神宝祭は、神から与えられた力を本人が自覚し、発揮できるように促す儀式です。

家族ごとの儀式に加えて、夏休みの八月には全国の神の館で、集合形式で実施しました。新潟妙高偉光会館では、生まれてすぐ大病を患った息子に、「無事に成長できてよかった。生まれてきてくれてありがとう」と、母親から温かい言葉が贈られました。茨城高萩では、「これから自分の力で歩んでいっても、いつも応援しているよ」という父親のエールに、娘はうれしそうでした。

新たな心で自立への一歩を

「いつも励ましてくれる家族のおかげと思っている」「自分もみんなのように元気を与えられる人になりたい」と、家族にお礼を言う人も。「生まれた時を思い出し、感謝を新たにした」と語る父母も多く、儀式で親子の絆が深まっています。

家族の愛に包まれて、自立の時を迎えた若者たち。明るい未来に向かって、大きな一歩を踏み出しています。

# 活気ある課外教室が

## 青少年の良さが輝く

毎年恒例の青少年課外教室を神奈川県湯河原町にある偉光郷で開催。多くのことが得られる人気の行事に、全国から大勢の人が集いました。

互いに力を合わせて

### 皆で楽しい一日に

家族と参加した小中学生たちは、「みんなで楽しい一日にしよう」を合言葉に始まると、すぐに初対面同士で声を掛け合い、次の行動へ。力を合わせて運動やクイズに臨み、たくさんの人たちと交流を深めました。

親子で仲良く作業

ゲームの時間は、道具を譲り合い、失敗した人に「ドンマイ」とエールを送る小学生や、年下に優しく教える中学生も。違うやり方の提案を受けて、「それもいいね」と耳を傾ける様子は、見守る親たちが感心するほどです。

協調性や思いやりのある行動ができるのは、神の教えを学んでいればこそ。勝った人に温かい拍手を送る我が子の成長を、頼もしく見詰める保護者も少なくありません。笑顔の少なかった親子にも、和気あいあいとした空気の中で会話が弾んでいく姿は、例年見られる光景です。

親に教わりながら、昼食に使うえびの殻むきにも挑戦。「こんなに大変なんだ」苦労を実感した後に食べたえびカレーの味は格別です。食堂の職員に、「とってもおいしかったです」と、元気いっぱいに感謝を伝えました。

「もっと家の手伝いを」「友達のいいところをたくさん見つけよう」自分にできることを発見し、目を輝かせる子供たち。保護者からは、「優しく思いやりのある子に成長して…」「家族との会話が増えた」と、喜びの声が届きました。

### 気付きが成長へと

十五歳から三十歳までの青年たちが臨むのは、神示から生き方を考える二日間の研修です。「自分の良さを探したい」「心を成長させる機会に…」と、一人一人が意欲的に参加しました。

神示を軸に生き方を考える

悩みに直面した人の話を題材に話し合うと、活発な発言が。「一人で悩まず、家族と話し合って…」「現状の中でできることをしてから…」問題に直面しても、それを糧に力強く前進しようとする若人に、担当職員も感動しました。

「就職活動に行き詰まった時、周りの人たちの支えに気付いて力が湧いた」との実体験に、刺激を受けた大学生。また、相手の話を真剣に聞く仲間を見て、「自分に欠けている姿勢だった」と気付いた人もいます。

研修の一環で、使っている場所を感謝の心で清掃。みんなで声を掛け合い、協力して取り組みました。日頃あまり掃除することがない人も、一生懸命に作業。終了後は、「役に立ててうれしい」と笑顔があふれました。

研修の最後に、役立つ人になるための生き方を神示で確認。「自分の良さを信じて、仕事に全力で取り組もう」「出会いを大切に、できることを気持ちよくしていきたい」などと、前向きな声が。初めての人も、「みんなが優しく声を掛けてくれた姿を見習いたい」と、力強く語りました。

奉仕の心で気持ちよく

つかんだことを生活に生かせば、さらに心の成長につながるはずです。

# 「好転」の極意を知る

## 真理が生きる支えに

### 『心の旅路94』発行

心の旅路94
「好転」の極意

人生に悩みは付き物でも、教えに生きれば、迷いや不安は消え去ります。真理を軸に明るい毎日を歩む人々の生き方を紹介しているのが、『心の旅路』です。誌面は、各自が力強く生きる様子であふれています。

時に困難に直面しても、自らを見詰め直すチャンスと捉えたり、家族みんなで助け合って乗り越えたり、それぞれの内容からはつらつとした息吹が漂います。「いつも相手の気持ちを大切に…」「自分にできることを惜しみなく…」「お互いさまなのだから、周りと調和する生き方を…」日々豊かな心で暮らす一人一人の姿を通して、教えで生きる素晴らしさを実感できることでしょう。

読者からは、「どんなときでも自分を磨こうとする姿勢に感銘を受けた」「心遣い一つで環境が変わっていく話に胸が高鳴った」などと、感動の声が寄せられています。「自分も高い生き方をしたい」との思いになる人も多く、教科書とは違った角度から教えに触れられる書籍となっています。

健康、料理、会話術など、身近な話題のコーナーもあり、誰でも楽しめる一冊。神の教えに触れたことのない人にも手に取ってもらいやすく、「教会のことを知ってもらうのにちょうどいい」「さくさく読めるから、気軽に勧められる」と好評です。

九月一日発行の最新刊は、『好転』の極意」が巻頭特集のテーマです。その時々の心遣いで、物事がより良い未来に向かって動きだすことが分かります。仕合せを得るための的を射た努力や、人付き合いに関する特集もあり、ページをめくるたびに、教えに生きる価値が見えてくるでしょう。

# 心のかけ橋

### 思いを大切に仕事に取り組む

栃木県　飯野　真

経営するIT系の会社でシステム開発の依頼を受けました。最初は順調だったものの、依頼主から要求が次々と追加。社の開発担当者は行き詰まり、心が折れてしまったのです。私も両者の間に入り、調整を試みましたが、話し合いは平行線でした。

みんなが納得できる結論に収められないか…と考えていた時、勉強会で「仕事とは、縁ある人のために力を尽くすこと」と学んだのです。「相手の心を感じながら、自分にできることをしよう」と思い、祈願しながら担当者と話しました。誠実に取り組んでいる姿勢を認めつつ、「お客さまの思いに応えられるように頑張ろう」と伝えると、「やってみます」と前向きになってくれたのです。お客さまも、「それなら、ここは省いても大丈夫」と要求を減らしてくれ、無事に納品できました。相手の思いを受け止めて、誠実に対応すれば、出来栄えも、結果も変わると学びました。

心の動きを良い方に向けられる教えがあり、祈願で実践できるありがたさをかみ締めています。「関わる全ての人が気持ちよく働ける環境づくりを…」と心に留めて、仕事に取り組む毎日です。

### 心を育む環境を活用する喜び

茨城県　鷺　真由美

宿泊処の入浴剤を入れて、子供たちとお風呂に入った時のこと。ぼたん湯ができたいきさつを話すと、小学五年生の長男が「もっと聞きたい」と興味津々の様子でした。以来、毎晩『真実への道光の足跡』集大成版を読み聞かせています。子供なりに直使、代神が歩まれた足跡は深く感じるものがあるようで、「すごい」と感動しながら眠りに就いています。

息子にとって、教会は第二の我が家です。自宅から目と鼻の先に神の館を頂き、幼い頃は毎日のように通っていました。今でも、実りの集いには毎月欠かさず出席しています。心を育む環境が身近にあることに、感謝でいっぱいです。

先日、小学校の授業参観に行くと、短冊が飾られていました。息子は、「家族がずっと幸せに暮らせますように」と書いていて、胸が詰まる思いでした。家族で教えを学ぶ大切さを感じ、親として恥じない生き方をしたいと思っています。

### 仕合せを感じた神宝祭の儀式

神奈川県　鈴木昭代

二月に十五歳の孫の神宝祭に参列しました。伝導師の言葉から、自分の良さを信じて生きる大切さが分かったようで、力強くうなずいていました。儀式後は、爽やかな笑顔でした。

その夜、孫が「ありがとうございました」と、家族みんなに挨拶したのです。日頃から感謝を口にする孫ですが、その日は一層心が温まり、「家族が一つになるってこういうことかな」と仕合せを感じました。

春からは東北の高校に進学し、寮生活を送っています。ふと「どうしているかな」と心配になっても、息子夫婦が折に触れて近況を話してくれるので、安心します。孫の頑張りは、私自身の励みです。将来は、多くの人の役に立つ人間になってほしいと願っています。

### 豪雨の中でも人と支え合って

岡山県　松尾裕子

西日本を襲った豪雨。不安が募りながらも祈願し、家族で協力して荷物を二階に運びました。慌てないようにと、夫が優しく声を掛けてくれたおかげで、冷静でいられたと思います。教会から、また友人から安否を気遣う連絡があったことも、ありがたかったです。

自宅は床下浸水と車の故障で済みました。周辺はごみだらけで、「縁があって住んでいる所…」と思うと、率先してきれいにしようという気持ちでした。近所総出での片付けとなり、声を掛け合う中で、心の距離が近くなった気がして、うれしく思いました。

被災者のつらさや今後の生活を考えると、人ごとと思えず、ボランティアにも参加しました。それぞれが現地の人たちに気遣いながら作業していて、その場は温かい雰囲気です。人間が本来持つ思いやりの素晴らしさに感動しました。住民の方に、「あまり無理なさらないで、少し休んでくださいね」と声を掛けるだけでとても感謝され、役に立てた喜びでいっぱいでした。体は疲れても、心は充実感で満たされ、すてきな時間を過ごさせてもらったと感じます。

今回の経験から、人の痛みを知り、思いやりやお互いさまの心で生きる大切さを痛感しました。置かれた環境に感謝を忘れず、できることで役立つ自分でありたいです。

# ご案内

### 光寿信者参拝時は真心を浄財奉納に

一年の感謝を届ける光寿信者参拝時に、今年も御礼浄財奉納をお受けします。信者各位から寄せられた真心の浄財は、一人一人の幸福を実現する神示教会の環境の整備に充当します。

全国三十四番目となる大分偉光会館は、平成三十一年の開所に向け、工事が進行。北海道旭川、帯広、宮崎、沖縄でも計画が進んでいます。神総本部、各偉光会館では、施設改修や機能の充実を図っています。誰もが神の教えで心を育み、仕合せ、幸福を得られる環境の拡充に、皆さまのご協賛をお願いします。

# 編集後記

人は、知識を絶対と思い、物事を経験則から考えます。しかし、繰り返される歴史であっても、同じということはありません。その中で、神示を学べば、未来が分かります。的を射た努力ができます。そうした神示の価値を知って、的確な努力を重ねていきましょう。